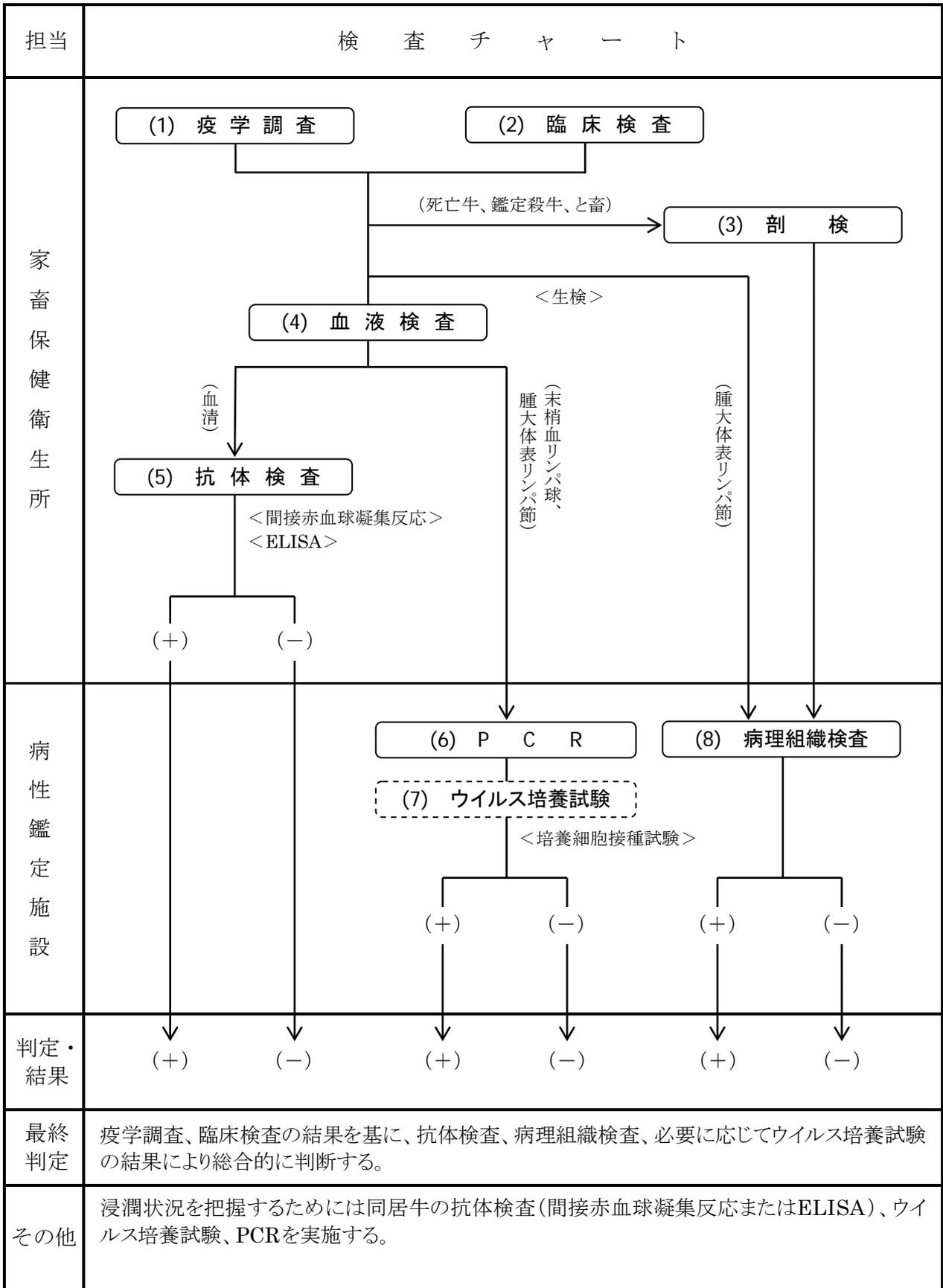


16 牛白血病〔地方病性(成牛型)牛白血病〕〔届〕



→類似疾病検査

- ① 牛白血病(散発型) ② 187 脂肪壊死症 ③ 好酸球筋炎 ④ 心嚢炎

○ 病原体:牛白血病ウイルス;Bovine leukemia virus [*Bovine leukemia virus, Deltaretrovirus, Orthoretrovirinae, Retroviridae*]

(1) 疫学調査

- ① 本病に対する抗体陽性率が高い農場、地域で主に3歳以上に発症
② 過去に同一施設内、放牧地で本病の発生があった。
③ 血縁関係牛に本病の発生があった。
④ 本病の発生があった農場から牛を導入した。
⑤ 同居牛に持続性リンパ球増多症牛がいる。

(2) 臨床検査

- ① 一般症状の悪化
② 体表リンパ節の腫大、骨盤腔腫瘍、眼球突出またはこれらの合併症
③ 起立困難または不能
④ 軟便または下痢

(3) 剖 検

- ① リンパ節の腫脹ないし腫瘍化
② 心臓、腸間膜、第四胃壁、子宮壁、尿管、眼窩、横隔膜、躯幹筋、腰椎硬膜下などに灰白色髄様の腫瘍組織形成
③ 脾腫

(4) 血液検査

- ① リンパ球数の高度の増数(1万個/ μ l以上ときに20万個/ μ lになることもある)。ときに増数しない例もある。
② 大部分の例で異型細胞(正常リンパ球より大型で、不規則な核の形態を示し、細胞質は濃染する。)が末梢リンパ球数の5%以上になる。

(5) 抗体検査(間接赤血球凝集反応、ELISA)

間接赤血球凝集反応またはELISAを行う。

(6) PCR^{1),2)}

末梢血リンパ球、腫大体表リンパ節よりDNAを抽出してPCRを行う。

(7) ウイルス培養試験(培養細胞接種試験)

使用細胞:牛またはめん羊胎子由来細胞、CC81細胞

接種材料:末梢血リンパ球

培養方法:37°Cで混合培養

成績:多核巨細胞(シンシチウム)を伴ったCPEが検出される(成牛型)。

同定:蛍光抗体染色により培養細胞中に特異蛍光を確認する。

(8) 病理組織検査

生体は腫大した体表リンパ節のバイオプシーを行い、組織学的に腫瘍細胞を確認する(生検)。

① 病巣は未分化または低分化型の大型リンパ様細胞の腫瘍性増殖からなる。

② 骨髄、肝グリソン鞘に腫瘍細胞増殖を認めることはきわめて希である。

③ 免疫組織化学検査で腫瘍細胞にBリンパ球のマーカー抗原を検出する。

(参考文献)

1) Fechner, H., et al.: *Virology*. 237, 261-269 (1997).

2) Murakami, K., et al.: *Virology*. 202, 458-465 (1994).